ひきこもり等に関する調査　集計結果（令和7年8月1日現在）

松山市保健所保健予防課

1. 調査の回答者数、回答率

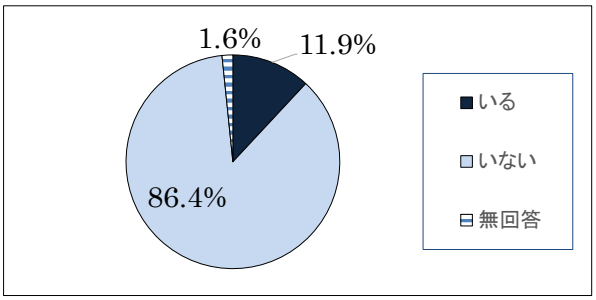
	民生児童委員	福祉関係者	全体
対象者数	1,006	261	1,267
回答者数	831	91	922
回答率	82.6%	34.9%	72.8%

※福祉関係者の内訳
地域包括支援センター、障がい者地域相談支援センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所、フリースクール

2. 受持ち地域や担当内に「ひきこもり等の状態にある方」がいるか

	全体（人）
いる	110
いない	797
無回答	15
計	922

※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。



ひきこもり等の状態にある方がいるか

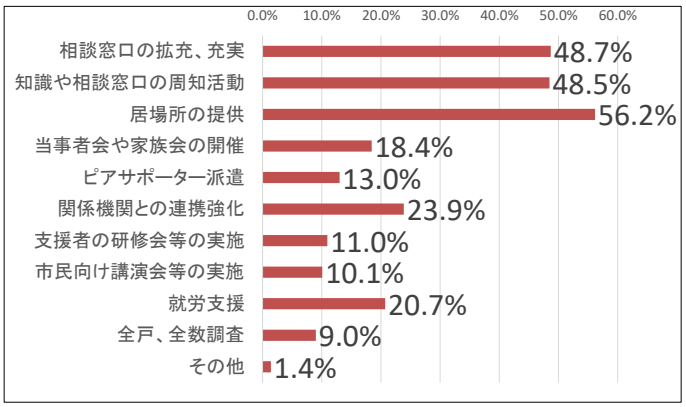
3. 把握している「ひきこもり等の状態にある方」の人数

	全体（人）
把握している「ひきこもり等の状態にある方」の人数	182

4. ひきこもり等に関する支援策で優先順位の高い項目（複数回答）

n=182

	全体（人）	割合
相談窓口の拡充、充実	449	48.7%
知識や相談窓口の周知活動	447	48.5%
居場所の提供	518	56.2%
当事者会や家族会の開催	170	18.4%
ピアサポーター派遣	120	13.0%
関係機関との連携強化	220	23.9%
支援者の研修会等の実施	101	11.0%
市民向け講演会等の実施	93	10.1%
就労支援	191	20.7%
全戸、全数調査	83	9.0%
その他	13	1.4%

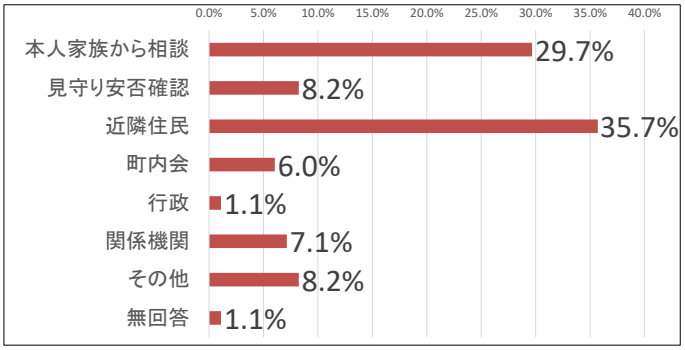


ひきこもり等に関する支援策で優先順位の高い項目（複数回答）

5. ひきこもり等の状態にある方がいらっしゃることを、どのような方法で知ったか（複数回答）

n=182

	全体(人)	割合(%)
本人家族から相談	54	29.7%
見守り安否確認	15	8.2%
近隣住民	65	35.7%
町内会	11	6.0%
行政	2	1.1%
関係機関	13	7.1%
その他	15	8.2%
無回答	2	1.1%



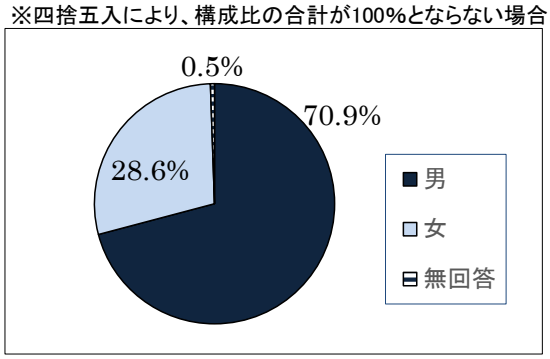
どのような方法で知ったか（複数回答）

●「ひきこもり等の状態の方」に関する回答

（1）性別

	全体（人）
男	129
女	52
無回答	1
計	182

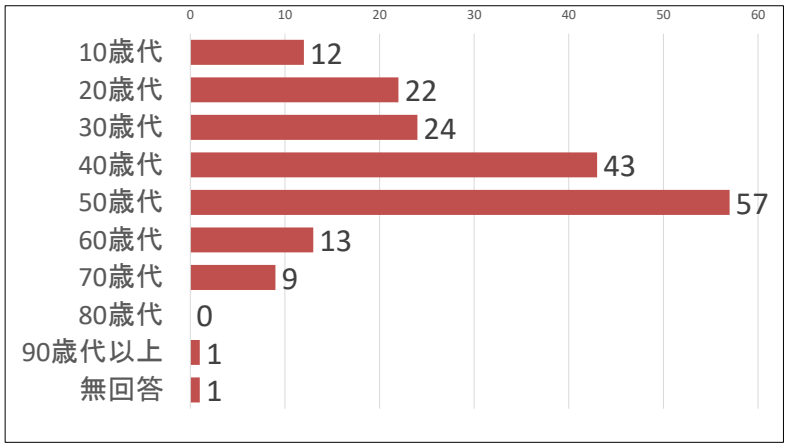
※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。



性別

（2）年齢

	全体（人）
10歳代	12
20歳代	22
30歳代	24
40歳代	43
50歳代	57
60歳代	13
70歳代	9
80歳代	0
90歳代以上	1
無回答	1
計	182

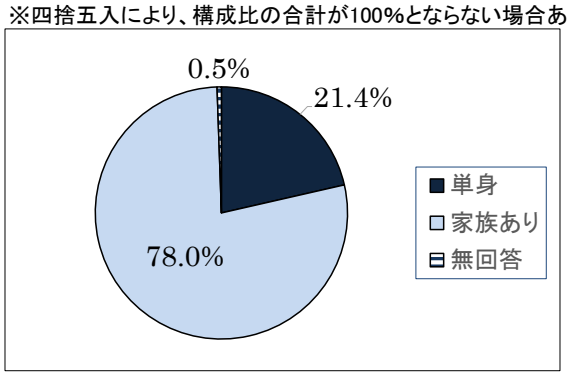


年齢

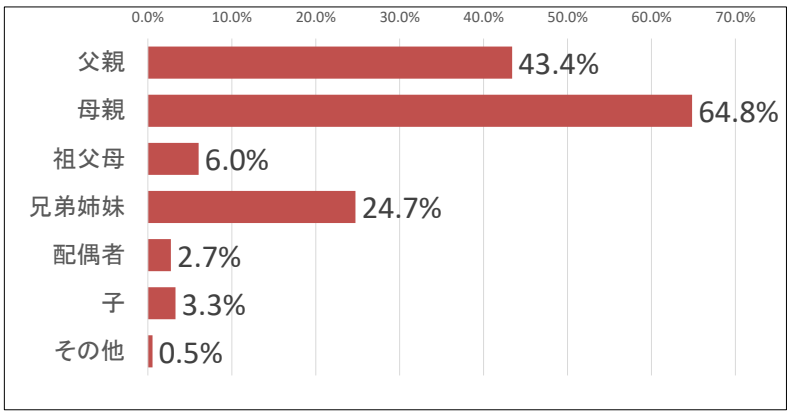
（3）家族構成

	全体（人）	割合(%)
単身	39	21.4%
家族あり	142	78.0%
無回答	1	0.5%
父親	79	43.4%
母親	118	64.8%
祖父母	11	6.0%
兄弟姉妹	45	24.7%
配偶者	5	2.7%
子	6	3.3%
その他	1	0.5%
計	182	100.0%

※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。



家族構成

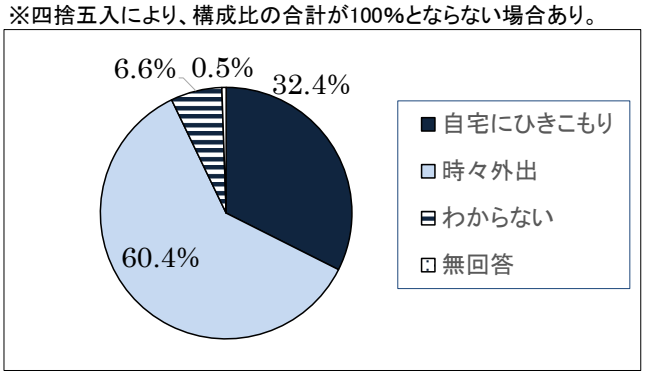


「家族あり」の内訳（複数回答）

（4）ひきこもりの状況

	全体（人）
自宅にひきこもり	59
時々外出	110
わからない	12
無回答	1
計	182

※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。

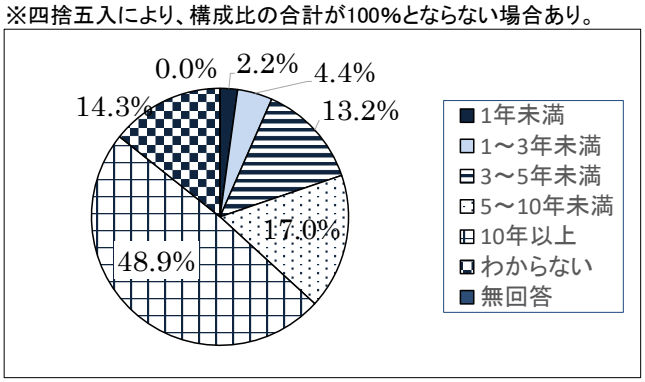


ひきこもりの状況

（5）ひきこもりの期間

	全体（人）
1年未満	4
1～3年未満	8
3～5年未満	24
5～10年未満	31
10年以上	89
わからない	26
無回答	0
計	182

※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。

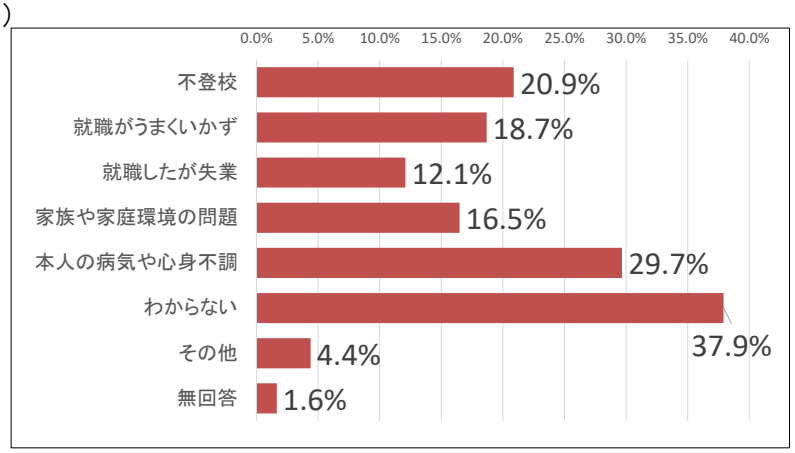


ひきこもりの期間

（6）ひきこもりになったきっかけ（複数回答）

n=182

	全体（人）	割合(%)
不登校	38	20.9%
就職がうまくいかず	34	18.7%
就職したが失業	22	12.1%
家族や家庭環境の問題	30	16.5%
本人の病気や心身不調	54	29.7%
わからない	69	37.9%
その他	8	4.4%
無回答	3	1.6%

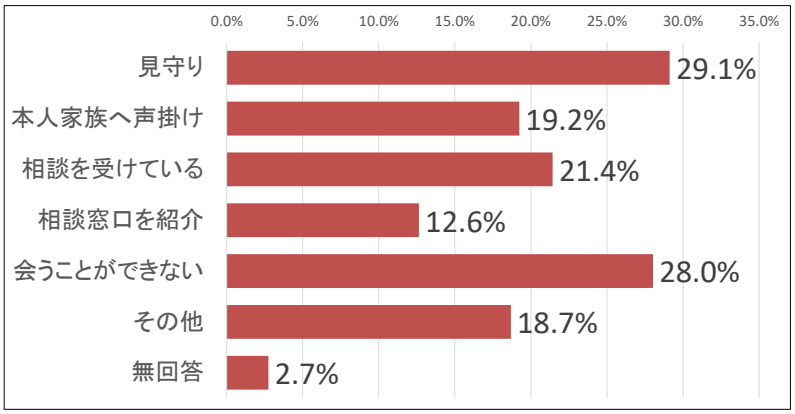


ひきこもりになったきっかけ（複数回答）

（7）対象者への関わり（複数回答）

n=182

	全体（人）	割合(%)
見守り	53	29.1%
本人家族へ声掛け	35	19.2%
相談を受けている	39	21.4%
相談窓口を紹介	23	12.6%
会うことができない	51	28.0%
その他	34	18.7%
無回答	5	2.7%

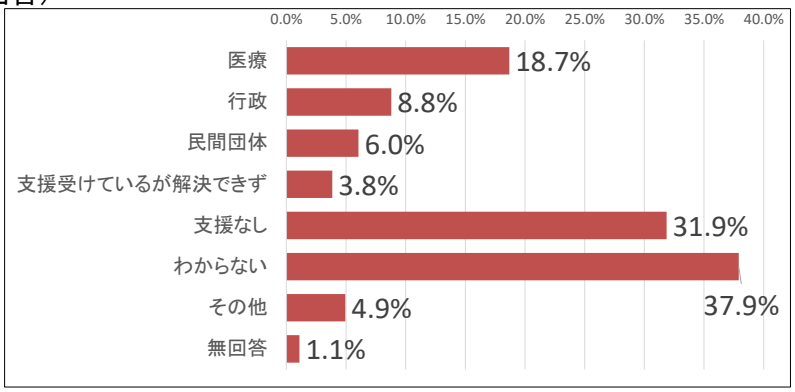


対象者への関わり（複数回答）

(8)対象者が現在受けている支援(複数回答)

n=182

	全体(人)	割合(%)
医療	34	18.7%
行政	16	8.8%
民間団体	11	6.0%
支援受けているが解決できず	7	3.8%
支援なし	58	31.9%
わからない	69	37.9%
その他	9	4.9%
無回答	2	1.1%

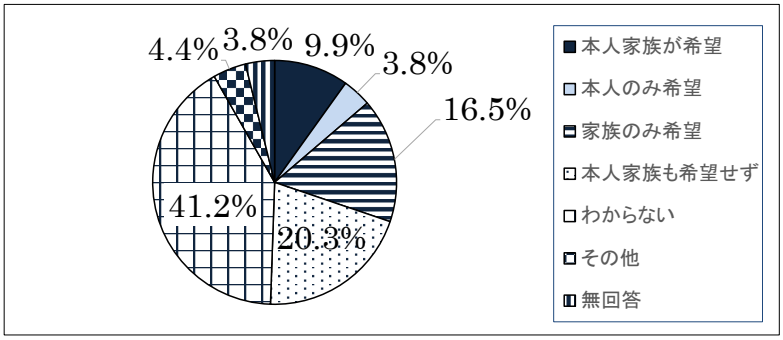


対象者が現在受けている支援(複数回答)

(9)支援や相談希望の有無

	全体(人)
本人家族が希望	18
本人のみ希望	7
家族のみ希望	30
本人家族も希望せず	37
わからない	75
その他	8
無回答	7
計	182

※四捨五入により、構成比の合計が100%とならない場合あり。

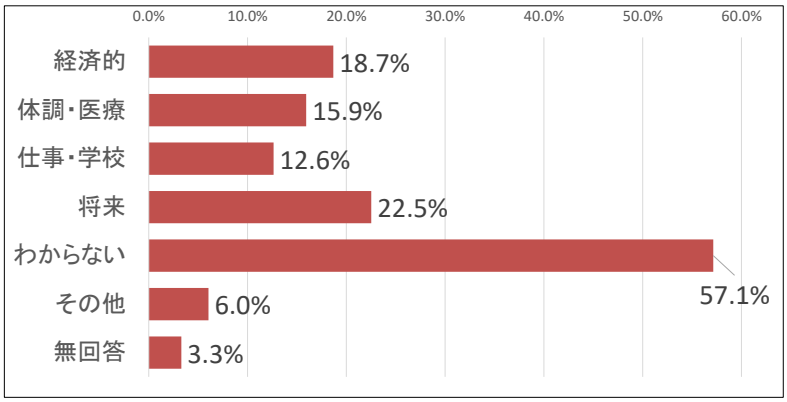


支援や相談希望の有無

(10)対象者が困っていること(複数回答)

n=182

	全体(人)	割合(%)
経済的	34	18.7%
体調・医療	29	15.9%
仕事・学校	23	12.6%
将来	41	22.5%
わからない	104	57.1%
その他	11	6.0%
無回答	6	3.3%

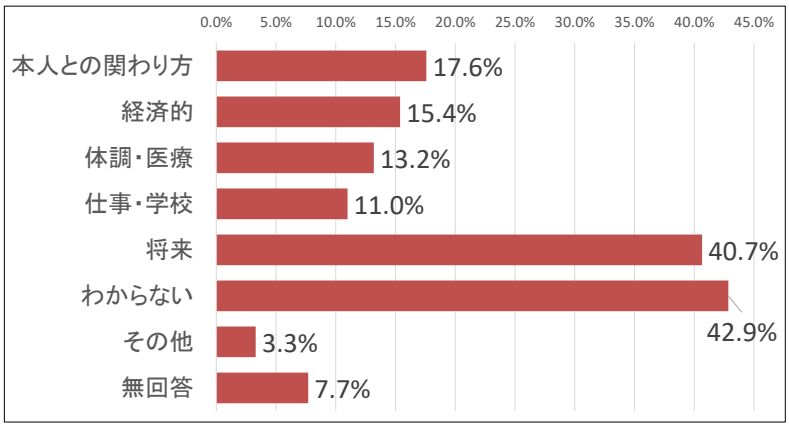


対象者が困っていること(複数回答)

(11)家族が困っていること(複数回答)

n=182

	全体(人)	割合(%)
本人との関わり方	32	17.6%
経済的	28	15.4%
体調・医療	24	13.2%
仕事・学校	20	11.0%
将来	74	40.7%
わからない	78	42.9%
その他	6	3.3%
無回答	14	7.7%



家族が困っていること(複数回答)

（自由記載）

●ひきこもり支援に関する課題、意見、日頃感じていること等（一部抜粋）

【情報が得られない】

・人間関係の希薄化や個人情報の問題もあり、ひきこもりの実態把握が難しい。（68件）
・本人や家族が相談しないと、ひきこもりで困っている状況が分からない。（34件）
・潜在的なひきこもりが多くいると思う。（9件）
・行政等が実施する調査でひきこもりの実態を知る必要がある。（8件）
・義務教育終了後の方の情報がつかみにくい。（2件）

【支援や対応の難しさ】

・人それぞれにひきこもりの状況や背景が違い、支援や対応が難しい。（34件）
・支援や対応の方法が分からない。（15件）
・本人や家族に相談意思がなければ、相談や支援につなげることができない。（11件）
・どこまで立ち入っていいのか分からず、対象者へ声をかけにくい。（6件）
・本人の意思確認が難しく、支援が前に進みにくい。（2件）
・障害認定されていない成人のひきこもりでは、福祉支援につなげることが難しく、対応が困難である。

【家族について】

・支える家族側の負担が大きい。（6件）
・家族もどうしたらいいのか、どこに相談していいのか分からない。（3件）
・ひきこもりを家族の問題として捉える親が多く、家族の問題を知られたくないという親の意識を変えていくことが大切。（3件）
・家族が孤立している。
・親が高齢になり、スマートフォンなどによる情報アクセスが難しく、必要な情報が得られない。

【医療について】

・医療機関を受診しても、ひきこもりが解消されるものではない。
・在宅診療のできる医療機関があればよい。
・当事者・家族ともに精神科医療へのつながりが必要。
・医療機関から当事者会・家族会につなげてほしい。
・医療費の負担が大きいため、受診をためらう場合がある。

【関係機関との関わり】

・地域・行政・民生委員・関係機関等が連携した支援が必要。（8件）
・NPO法人等の民間団体の支援や連携が必要。
・繋ぎ先の選択や連絡・連携に不安を感じている。
・緊急時の支援体制や関係機関の動き等の確認が必要。
・8050世帯で親の支援者と本人の支援者で見解に相違があり、連携が取りづらい場合がある。

【周知広報】

・支援機関や相談窓口等の更なる周知広報が必要。（16件）
・回覧板やチラシ配布などで周知をすればよい。（2件）
・ひきこもりに関する理解を深める動画配信等があれば、気軽に視聴できる。（2件）
・インターネットやSNSを活用し、当事者へ情報を届ける工夫が必要。（2件）
・日頃の民生委員活動を通して、必要な方へ情報を届けたい。

【支援に関すること】

・本人・家族が気軽に相談できる窓口や環境整備が必要。（33件）
・当事者目線や寄り添う支援、その人らしい生き方の支援が大切。（16件）
・孤立を防ぎ、気軽に集うことのできる居場所やコミュニティが必要。（10件）
・家族支援が重要。（7件）
・ひきこもりに関する知識の普及啓発、研修会や勉強会の開催が必要。（7件）
・支援者の人材育成や資質向上、スキルアップが必要。（6件）
・柔軟なアウトリーチ支援が必要。（6件）
・ひきこもりがすぐに解決する方法はないため、焦らず長期的な支援体制が必要。（5件）
・ひきこもりが長期化すると解決が困難であるため、早期に気が付いて対応することが大切。（4件）
・当事者の気持ちを理解できるピアサポーターとの交流機会があればよい。（4件）
・支援者側の知識、対応方法について学びたい。（4件）
・ひきこもりには複雑な背景があるため、専門的な支援機関の介入が必要。（4件）
・本人や家族が相談を必要とするまで待つことが必要。（3件）
・家族会の充実が必要。（2件）
・インターネットやLINE等での相談ができるとよい。（2件）
・社会復帰した事例を共有し、回復のきっかけをつかむ学習会等を実施してはどうか。（2件）
・支援する側とされる側のニーズの違いによるミスマッチが多いのでは。
・孤独・孤立をいかに減らすかが重要。
・ひきこもり本人の年齢によって相談窓口が違う場合があり、ワンストップで対応できる窓口が必要。
・自立訓練事業所などの社会資源利用のハードルが高いため、送迎があると通いやすい。
・短時間のボランティア活動やアルバイト等で、自分自身の有用性を感じる機会があればよい。
・8050問題等の複合的ニーズ世帯への支援が必要。
・中高年のひきこもりは親への経済的負担が大きいため、早期に支援機関が関わる必要がある。
・経済的な困り事を優先的に支援することが必要。
・社会資源利用のために必要な費用を行政で負担してほしい。

【所感】

・ひきこもりに触れてほしくない気持ちから本人や家族は相談が難しく、支援受入れに消極的な場合が多い。（25件）
・ひきこもり状態の方を把握したら、本人・家族への親身な声掛けや支援機関との連携など、できることをしていきたい。（11件）
・ひきこもりはデリケートな問題だと思う。（6件）
・親が亡くなった後の本人の生活が心配。（4件）
・本人や家族の力になりたいが、行動を起こすことができない。（4件）
・ひきこもりについて、どこに相談すればいいか分からない。（3件）
・当事者・家族はつらく苦しい気持ちでいると思う。（3件）
・相談ができない、SOSを出せない人の声をどのようにキャッチするかが肝心。（2件）

【不登校からのひきこもり支援】

・不登校から長期ひきこもりにつながる場合があるため、不登校支援、15歳以下のひきこもり支援が重要。（5件）
・義務教育終了後も途切れない支援、支援機関の確実なバトンタッチが必要。（5件）
・フリースクールの活用や充実が必要。（3件）
・ひきこもりの原因のひとつにいじめ問題があるため、いじめ問題への取組が必要。

【ひきこもりを取巻く社会環境】

・ひきこもりは家族の問題ではなく地域や社会の問題という認識、ひきこもりに関する社会の理解促進や偏見解消が必要。（10件）
・積極的な近所付合いや地域のコミュニケーション活性化が必要。（6件）
・地域でひきこもり状態の本人・家族との関わりがない。（4件）
・地域や社会全体でひきこもり支援ができればよい。

【その他】

・ひきこもり状態の方すべてが困っているわけではなく、支援が必要でない方もいると思う。（3件）
・ひきこもりにはネガティブなイメージがあるため、他の言い方があるとよい。

●ひきこもり等の状態にある本人や家族から寄せられた声や意見、要望等（一部抜粋）

【将来への不安や行き詰まり感】

・家族は、本人の将来や自分がいなくなった後のことを心配している。（6件）
・将来が見えず不安な気持ち、もう手立てがないという思い。（2件）
・同居の親が高齢になり、本人の支援が難しくなってきた。
・様々な相談窓口を利用したが、話を聞いてくれるだけで解決策がない。

【本人や家族の意思】

・家族・本人ともにそっとしておいてほしい、親がいる間はこのまま波風を立てたくない。（5件）
・家族が支援を希望しても、本人が他者との関わりや支援を拒否している。（3件）
・本人にひきこもりを解消したいという意志がない。（3件）
・家族としては、とにかく本人に会って話をしてほしい。（2件）
・死にたいほど辛い気持ち。
・本人に人と交流したい気持ちはあるが、どうすればいいか分からない。

【家族の対応】

・ひきこもり解消のために、家族はどうしたらよいのか分からない。（2件）
・相談先を教えてほしい。（2件）
・家族はどうしようもないので、現状を見守るしかない。（2件）
・本人へどのように関わればよいのか教えてほしい。

【本人のきょうだい】

・両親の他界や病気等で親が支援できない場合、きょうだいの負担が大きい。
・支援者が県外在住のきょうだいのみで大変。

【本人の体調や医療】

・家族が本人の精神科受診や障害認定、障がいサービス利用等を希望しているが、本人が拒否している（3件）。
・生活リズムや食習慣の乱れ、喫煙などにより、本人の体調面が心配。

【経済面】

・経済的な負担や不安が大きい。（2件）
・経済的理由で医療やサービスの利用が難しい。
・支援や心のケアに関する費用を行政から支援してほしい。
・障害年金がもらえるようになってよかった。

【就労】

・就労体験をさせたが、本人が乗り気でなく上手くいかなかった。
・体調等の都合で、職場で過ごす自信がない。
・本人や家族も就労は無理だと思っている。
・働くことよりも、とにかく面接がこわい。
・働く意思はあり、実際に仕事をしていた時期もあったが、長続きしない。
・軽い条件や短時間から試していけるアルバイト・仕事があればよい。

【緊急対応】

・本人が不安定になると暴言・暴力のおそれがあるので、家族は常に気を遣っている。（2件）
・本人から家族への暴力に困っている。
・高齢の親が本人から精神的な虐待を受けて疲弊していたが、支援介入により落ち着いた。

【居場所や交流の場】

・気軽に安心して参加できる居場所や交流の場がほしい。

【その他】

・義務教育終了後の支援を途切れず継続してほしい。